障害を知ろう

発達障害について

主な発達障害

●自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害

これらのタイプの共通の特性としては、「社会性・コミュニケーションの障害」や「興味、活動の範囲が狭く、パターン化した行動やこだわりが強いこと」があげられます。また、ざわざわした環境が苦手だったり、大きな音を怖がるなどの音に対する敏感さや、身体に触れられることが苦手といった感覚の過敏さと、逆に痛みや疲れを感じにくいといった感覚の問題がみられる場合があります。

●注意欠陥多動性障害

集中できない、うっかりミスが多いなどの「不注意」、しゃべりすぎる、待つことが苦手で動き回る、じっとしていられないなどの「多動」、考えるよりも先に言動や行動を起こしてしまうなどの「衝動性」といった特性があります。

●学習障害

全般的な知的発達に遅れはないのに、「読む」「書く」「計算する」などの特定の能力に著しい困難がある状態をいいます。

診断基準の改定

平成25年に、病気や障害を分類する手引「DSM－5」において診断基準の改定が行われ、自閉症、アスペルガー症候群などは、連続した一つの症状という考え方になり、診断名も自閉スペクトラム症に変更されました。また、注意欠陥多動性障害、学習障害についても診断名がそれぞれ注意欠如多動症、限局性学習症に変更され、今後はこの診断名が一般的に使われていくことになると考えられます。

こんなことに困っています！

●対人関係が苦手で、常同的な行動や活動がみられます。

自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害がある人は、相手の気持ちを理解したりすることが苦手で、周囲との共感的な関係を築くのは難しい場合が多いです。また、変化に対応するのが苦手で、同じ行動パターンにこだわることがあります。

●うっかりしたミスや出し抜けの行動をとるときがあります。

注意欠陥多動性障害（注意欠如多動症）がある人は、うっかりして同じ間違いを繰り返したり、約束事や決まり事が守れなかったり、出し抜けに行動してしまい、周りの人に誤解されてしまうことがあります。

●読むことや書くことが極端に苦手であったりします。

学習障害（限局性学習症）がある人は、音と文字のつながりを理解することや文字の視覚認知などが困難であるため、読むことや書くことが極端に苦手であったりします。

コミュニケーションのポイント

●わかりやすく具体的に話しましょう。

●何かを説明するときは、言葉だけでなく、絵や写真など実物のイメージがわかるものを見せて伝えましょう。

●新しい予定や予定の変更に対応が難しい人もいます。本人がわかるように具体的に説明しましょう。

●一度に複数のことを扱うのが難しい人もいます。一つずつ順を追って簡潔に話をしましょう。

●学習障害（限局性学習症）などの発達障害がある場合は、困難なことを補う方法を一緒に考えましょう。

●聴覚過敏がある人は、騒がしい場所では落ち着いて話をしたり、作業をしたりすることが難しい場合があります。静かな場所を用意して話をしてみたり、作業を進めることに集中できる環境を作りましょう。

望まれる心配りの例

●発達障害に対する間違った知識や思い込みによる偏見をなくし、正しい知識を増やしていくようにしましょう。

●発達障害は脳の機能障害によって生じるもので、親の育て方や本人の努力不足によるものではないことを理解してください。

●障害特性による困難さがある反面、平均以上に優れた能力を持つこともあります。本人の得意なこと、強みに注目してみましょう。